

『十勝型』地域包括ケアを目指して ～新たな医療・介護連携、4年間の歩みとこれから～

④ 医療と介護の連携推進事業

十勝連携の会
笠松 信幸 幹事
(かさまつケアオフィス
合同会社代表)



十勝連携の会結成から2年目(2012年)、もう1つの大きな転機がありました。それは、この年8月、北海道から「医療連携推進事業実施団体」に指定されたことです。

発端は5月の幹事会でした。K保健師(道立帯広保健所)が情報を持ってきたのです。それは「医療と介護の地域連携の仕組みを2次医療圏域ごとにつくるために、北海道が実施団体を募っている」という情報でした。道庁から来た募集要項を見てみると、何だか難しい言葉が並んでいます。行政文書なので理解するのが容易ではありません。

K保健師は、それを私たちにも分かる言葉で説明してくれました。

「北海道が2次医療圏(21圏域)ごとに団体を1つ選んで、医療・介護の地域連携を活発に興していくことになった。指定された団体には活動資金として、年に93万円の補助金が3年間支給される。活動内容はこれとこれ・・・」といった調子です。

「今までよりも活動が忙しくなるけれど応募しよう。十勝連携の会の活動をもう一回り大きく広げるきっかけになるから」と、いつにも増して熱意がこもったK保健師の説得に、「そうだな。やれるところまでやってみよう」というのが幹事会の結論でした。

でも心強い変化でした。

私たちは「十勝のミッション」を、①圏域の医療・介護機能の実情把握と分析、情報共有②退院支援、看取り支援など在宅ケアに必要な医療・介護機能の分析と検討③連携に必要な情報、ルール、意識づくりの3つに集約しました。

補助事業の3年間に取り組む目標は、1年目「準備活動と関係団体との合意形成」、2年目「連携に活用できるツールの作成」、3年目「連携システムの試験運用と行政・地域住民への普及」としました。

情報提供・共有の道具として初年度に立ち上げたホームページ(<http://www.ten-musu.org/>)は、会の活動を知らせるだけではなく「連携ツール」の道具置き場の役割も果たしています。

情報提供・共有の道具として初年度に立ち上げたホームページ(<http://www.ten-musu.org/>)は、会の活動を知らせるだけではなく「連携ツール」の道具置き場の役割も果たしています。



連載の最初でも紹介したように、国がモデルにしている地域包括ケアのイメージに比べて、十勝は①人口密度が低く、広域で住居が分散している②徒歩や自転車では十分な患者・利用者が確保できない③そのため、小規模事業所が多く、24時間緊急対応できる体制が取りにくい④在宅医療にとりくむ医師や訪問看護ステーションが不足している⑤医療や介護に関わる人員の確保に苦労している一などの特徴があります。

これらはどれも

ネガティブで解決が難しい課題であり、たとえ100年待っても、これらがすっきり解決する日は来ないかもしれません。

財源や人材確保が必要なハード面の体制強化がすぐには難しいのであれば、いま地域にいる人と人との関係＝ソフト面での体制強化ならできるのではないかと。十勝連携の会の着目点はここにあります。

✂多職種による意見交換会✂

補助事業1年目の節目として開かれた「意見交換会」(13年2月)には医師会、歯科医師会、薬剤師会をはじめとした医療系職能団体や介護・福祉系の団体あわせて30機関から参加がありました。地域連携をテーマにしてこれだけ多様な団体が一堂に会したのは十勝で初めての画期的な出来事でした。それだけ、関係者が危機感を持っていたことの表れだと思います。



13年2月の意見交換会

相田一郎帯広保健所長(当時)の開会挨拶が十勝の特徴と課題を端的に物語っています。

「十勝は広域であり、道内で唯一、2次医療圏と3次医療圏を兼ねていますが、医療は圏域内ではほぼ完結しているのが『強み』です。そこで、十勝ならではの医療と介護の連携をめざして『地域ルールづくり』を進めていけば、医療サービスと介護サービスが切れ目なく円滑に提供できるようになります。帯広保健所は、在宅医療をすすめるうえの最重要課題として、みなさんをしっかりサポートしていきます」

※ ※ ※

次回からは、地域連携を進めるために開発した「連携ツール」について、順にご紹介していきます。

✂「医療連携推進事業」の実施団体に✂

私たちの応募書類は十勝の審議会での検討を経て、8月に道知事から正式決定の通知が届きました。それまで関係者の情報交換が中心だった十勝連携の会は、この時から、十勝全体を視野に置いた地域連携づくりを実践する団体にバージョンアップしていったのです。

道の補助事業ということで、道立帯広保健所のバックアップが得られるようになりました。K保健師をふくめ、これまで裏方で会の活動を支えてくれた保健師さんたちが、表舞台に立てるようになったことは、と

北海道医療連携推進事業 (2012～14年度)

■十勝のミッション■

- 十勝の医療・介護機能の実情把握、分析・共有
- 退院支援、療養生活支援、急変時対応、看取り支援など在宅ケアに必要な医療・介護機能の分析検討
- 連携に必要な情報、ルール、意識づくり

■年次計画■

- ・2012年度…準備期、諸団体との合意形成
- ・2013年度…連携ツール等の作成・試行
- ・2014年度…連携システムの試験運用と評価
- ・取り組みで明らかになった課題を行政に提言
- ・広く住民、関係者に情報伝達(Web等の活用など)